

徳大卒業生 就職活動体験記

名前：曾詩涵

(ソウ シカン)

出身：台湾

学歴：徳島大学総合科学部交換留学生

(2022年度 育達科技大学 卒業予定)

会社：大塚倉庫株式会社 (東京)

仕事内容：未定 (研修後に決定)



(1) 私が日本企業に就職しようと思ったきっかけは？

高校の頃から日本のアニメが好きだったのですが、大学に進学してからは、日本のドラマにより興味を持つようになり、「半沢直樹」「ハケンの品格」など日本企業を舞台にしたドラマを好んで見ていました。ある時、母校の講義で「日本には就活という特殊な文化がある」と知り、それ以来、日本企業で働くことに興味を持ちました。来日後、徳島大学国際課から「留学生就職支援プログラム」の知らせを受け、それをきっかけに就職支援セミナーなどに参加するようになりました。元々、日本で留学するのが目標で日本企業での就職は考えたことはなかったのですが、セミナーを受け、今後のキャリアプランや日本での長期滞在の可能性について就職支援担当教員と相談した結果、「日本で就職するのも一つの機会である」と考え、本格的に日本での就活に取り組むようになりました。

(2) 就活で苦労したこと&成功したポイント：

一番苦労したのは、「自分を見つける」ことです。就職活動をはじめするためには、まず「自己分析」が必要です。ですが、これまで過ごしてきた20年の人生で「自分の強み・弱み」などについて考えたことがなかったので、エントリーシートを書く時は頭がちぎれるほど悩みました。幸いなことに、就職支援担当教員のサポートがあり、エントリーシートから面接に無事進むことができました。

ただ、面接が上手いかず、色々と苦しみました。最終的には、就職支援担当教員からのアドバイスで大塚倉庫株式会社の説明会を受け、同社から内定を貰うことができました。その時の重要なポイントが「自分を見つけること」でした。自分の個性である「周りに笑顔を」に気づき・発揮することができなかつたら、面接を通過することができなかつたと思います。

(3) これからの就活に向けたアドバイス：

私からのアドバイスは、2つあります。1つは、「しっかりと自分を知る」ことです。自己分析は就職活動の基盤であり、その後の方向性に大きく影響します。就職支援担当教員などに相談しながら自己分析を進めてください。2つ目は、「自分と企業は平等な立場である」という認識です。面接の際に、「自分が面接を受けている」という意識だけでなく、「我々就活生も企業に面接をしている」という視点を持って欲しいと思います。この考え方があれば、これからの就活でプレッシャーはかなり軽減すると思います。